Interview #02

*2024年3月インタビュー

2024年3月所属：生命農学研究科 応用生命科学専攻
（卓越大学院CIBoG／日本学術振興会特別研究員／実践データサイエンティスト育成プログラム）
2024年4月所属：大手製薬会社

生命農学研究科の先輩

これまでの研究概要を教えてください

糖鎖がどのようにガンの悪性化に関与するのか、糖鎖を作る酵素に着目して、機能解明を行っていました。製薬会社とは関連性が高かったと思います。

この春からの予定を教えてください

詳しい業務内容はまだ分からないです。ただ、数多くの分野に分かれている研究職という枠の中で、生物関係のことができるのは確実のようです。ただ、最終面接の場で「専門の糖鎖に関する研究ができるかはわからないよ」とは言われました。

就職が決まった背景は？

もともと「がんの研究は興味深くて面白い」と思いながら続けてきたので、専門領域に関連する分野で、かつ研究職ができたらいいなと考えて就活していました。また、自分は後輩指導やスケジュール管理に適性を感じることがあったので、ずっと研究職だけではなく、管理職としてのキャリアも楽しいのではないかと考えていました。そして製薬会社の中でも「人の命を救える研究」ができて、国内勤務の希望もあったため、総合的に考えて大手の内資製薬会社に絞られていきました。

キャリア形成にあたって活用したこと、経験してよかったことは？

卓越大学院の交流プログラムに参加した際のグループワークで、医者や情報系の人とコミュニケーションする機会があり、考え方や研究の進め方の違いを知れたのは貴重な学びになりました。
また、「実践データサイエンティスト育成プログラム」で企業とグループワークする経験は、修論の時期と重複してすごく忙しかったけれど、社会人の考え方に触れることができて勉強になったし、就活でも役に立ったと思います。
「企業と博士人材の交流会」では、動画を見てくれた企業の人事から声をかけられたり、逆に自分から企業の展示に足を運んで踏み込んだ質問をしたところ「ぜひ見学にきてほしい」と言われたりもしました。また、自分のプレゼンに対する企業の反応を知りたくて、一斉メールではなく、もう一歩踏み込んで個別にメールをしたところ、丁寧に質問にも答えてくれて、新しい気付きがありました。

就職活動で評価されたと思うことは？

面接の反応から推測すると、学会に数多く参加していた経験は評価されていたように思います。研究内容の質に対する評価はもちろんですが、あらゆる質問に何の衒いもなく、臆することなく答えられたので、そういう総合的な人間力も見てもらえたのかもしれません。

後輩たちにエールをお願いします。

先輩の言うことを聞いて就活スケジュールを考えていたところ、早期選考が前倒しになって一社の選考を逃してしまいました。情報は積極的に取りに行きましょう。ただ、内定をもらっても迷うくらいなら時間の無駄なので、「内定が出たら行こう」と思えた企業だけにエントリーするという強気の姿勢でもいいのではないでしょうか。
また、研究室が自分に合っているかはできるだけ事前に確認しておいた方がいいので、研究室に長く在籍している先輩に話を聞くのがおすすめです。ちなみに、学士や修士の段階で博士進学を少しでも考える人には、既に才能があると思います。自分で考えて主体的に動く姿勢があれば、活躍できることでしょう！
以前までは博士進学は金銭的不安が大きかったですが、今は各種制度のサポートが充実しています。また、特に製薬会社は、予想していた以上に「修士よりも博士を採用したい流れ」になっているようです。キャリア面でも博士人材の未来は明るいと思います！